

令和元年度救急活動研修会を実施しました

社会の国際化が進み、観光旅行者、交流・関係人口の拡大により福島県内においても、今後ますます外国人の増加が見込まれています。このような背景を踏まえ、伊達市生活部市民協働課の国際交流員ギラン・アンソニー様とドノバン・シャネン様を講師にお招きし、令和2年3月12日、16日、17日の3日間、救急現場で日本語を話せない外国人の傷病者に対して、どのような救急活動を行うべきかを学ぶため、外国人傷病者を想定した救急活動訓練を実施しました。

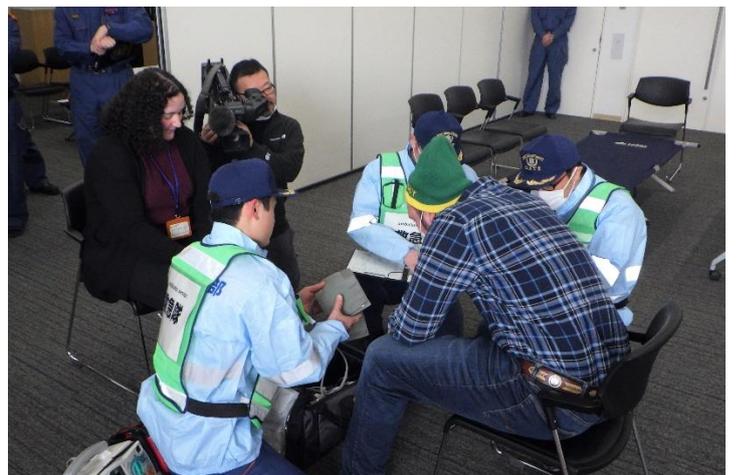
第1部 講習会：救急現場に必要なコミュニケーション能力



トニー先生（ギラン・アンソニー様）のジェスチャーはすごく上手でした。最後は質問にもご丁寧に対応していただきました。



第2部 想定訓練：外国人傷病者対応訓練



なお、本研修会は伊達市ケーブルテレビの取材も行われました。

傷病者役として日本語教室伊達ニティーのシヴァグル様にも参加ご協力頂きました。迫真の演技ありがとうございます。

当組合では、多言語通訳業務委託を行っており、日本語以外の言語での通報に対しても通訳を交えた三者間での通話が可能となっています。



救急隊は、多言語救急情報シートという紙ベースのツールを用意し、傷病者による指差し等での情報収集を行っております。また、救急隊はボイストラという翻訳アプリを使用し意思の疎通に役立てています。

日本語は主語を省略しがちですが、外国語では主語を明確にして、誰が誰に行くことかを伝える事が大切です。



OKのジェスチャーは、国によってはお金を意味してしまうため誤解を招かないよう注意も必要です。

身分証明については、在留外国人の方は在留カードというものを携帯しており、観光等で訪れた方はパスポートを持っているため確認すると良いと教えて下さいました。



訓練後は、しっかりフィードバックしていただき、今後の救急活動に繋がる大変貴重な時間となりました。伊達市生活部市民協働課の方々、日本語教室伊達ニティーの皆さん。訓練ご協力、本当にありがとうございました。今後も、当組合では様々な国籍の傷病者を想定し訓練を実施することで、言語の異なる傷病者への対応、コミュニケーション能力の向上を図っていきます。